

G-6 教育工学システムによる家庭科教育(第2報)

中野区立向台小 松田喜美子

1. 1970年代の日本の教育は、世界の教育との関連で位置づけ、探究されなくてはならない。今日 CAI, CMI は好むと好まざるとにかかわらず教育方法の現代化の主流として、進行しつつある。この時期に家庭科教育は、従来の体質から脱皮して、教育工学導入による教授法の根本的改善を図る必要を痛感する。つまり教授システムの開発がさしせまって教育の現代化への手がかりとして追求しつつある。

2. ①能力別学習を配慮した授業システム

②ソフト・ウェアについての考察

O.H.P. コンセプトフィルム, V.T.R シート

③ハード・ウェアについての考察

機器使用の実態(使用時間, 頻度)

④知的定着の考察

3. 今回は3回目のシート学習による調理学習なので、回を重ねる度に反省を軸に追跡し、発展できるように改善を加えている。3回を迎えて、授業システムの構想が確立できた。しかし、今回はより個別的学习の成立はどうあるべきかについては、ハード・ウェアとして、集団反応装置の必要にせまられた。ソフト・ウェアでは、能力別グルーピングによるシート学習としてのプログラムの開発が問題のため、45年度の研究課題となり、追究している。